

会議報告書（議事概要）

会議の名称	「健康都市おおぶ」推進会議（令和4年度 第2回）
日 時	令和5年2月15日（水）13時30分～15時00分
場 所	大府市役所5階 全員協議会室
出席者 （敬称略）	徳田 治彦（国立長寿医療研究センター） 伊藤 浩明（あいち小児保健医療総合センター） 赤堀 将史（大府市医師会） 田中 涉（大府市歯科医師会） 榊原 明美（大府市薬剤師会） 山本 陽子（公募委員） 坪井 信二（愛知県知多保健所） 林 史子（大府市小中学校） 岩井 幸子（大府市スポーツ推進委員会） 鷺見 幸彦（認知症介護研究・研修大府センター） 斉藤 雅茂（日本福祉大学） 藤田 静子（至学館大学） 事務局（健康都市スポーツ推進課・健康増進課・地域福祉課）9名
内 容	
<p>事務局： お忙しいところお集まりいただきお礼申し上げます。本日は、半数以上の委員が出席しているため、「健康都市おおぶ」推進会議条例第6条第2項の規定に基づき、令和4年度第2回「健康都市おおぶ」推進会議を開催する。始めに、次第の1、市長の岡村秀人よりご挨拶申し上げます。</p> <p>1 あいさつ</p> <p>市長： 日頃は、本市の健康都市施策の推進に多大なるご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。まず、新型コロナウイルス感染症に関して、ご承知のとおり、今後インフルエンザと同じような扱いがされると国から通知が来ているところ。これまで、感染症拡大防止やワクチン接種推進にご尽力いただき、お礼申し上げます。こうした国の動きを受け、引き続き感染症防止対策を推進するとともに、今後、公共施設の利用制限緩和やワクチン接種をどのようにしていくか検討しているところ。社会経済活動と感染対策が両立のウィズコロナ時代に入った。今後ともそれぞれの立場でご指導、ご鞭撻のほどお願いしたい。</p> <p>さて、「健康都市おおぶ」を推進するにあたり、認知症予防の取組や認知症にやさしいまちづくりは大変重要な施策の1つだが、このたび、本市の取組「認知症サポーター養成2万人チャレンジ」が、厚生労働省の表彰制度「健康寿命をのばそう！アワード」の介護予防・高齢者生活支援分野で、厚生労働大臣優秀賞を受賞した。コロナの影響で予定より少し遅れたが、市民各層、中学校やスーパーマーケッ</p>	

ト等のご協力をいただき、2万人を達成できた。今後もサポーターを中心に、認知症にやさしいまちづくりを進めていきたい。さらに、このアワードの他分野においても、本市の取組を発信しチャレンジしていきたい。

本日の議題では、令和2年3月に策定した「『健康都市おおぶ』みんなの健康づくり推進プラン」の進捗と今年度の取組実績、また、健康都市施策の実施状況などについて、ご報告する。忌憚のないご意見、ご助言をお願いする。

事務局： 徳田会長からも一言挨拶をいただきたい。

会長： 御指名により一言御挨拶申し上げます。3年にも及んだコロナ禍だったが、先ほど市長の挨拶にもあったように、ようやく転換期を迎え、コロナと共存する日常が目前のものとなってきた。我々医療者においては、十分かつ安全、快適に必要な医療を提供するため、より高度なバランス感覚が要求されることとなる。新しい時代の医療サービスの在り方について、皆様と一緒に探求していく所存である。

当センターが、荒井秀典理事長を中心に研究開発を行ってきた「J-MINT」、認知症予防を目指した多因子介入によるランダム化比較研究が一定の成果を上げ、年度末で終了する。地元大府市においては、健康増進事業として継承が計画されており、大変ありがたい。引き続き、認知症予防をはじめ、市民、ひいては国民全体の健康増進に役立つ研究開発を行ってまいりたい。今後ともよろしく御支援をお願いする。

本日の推進会議では、「『健康都市おおぶ』みんなの健康づくり推進プラン」の取組実績や、健康都市施策の実施状況が報告される。コロナ禍の様々な影響が総括され、次年度のアウトラインが見えてくるかと思う。列席の委員においては、様々な視点から活発な御発言をお願いしたい。

2 議題

(1) 「健康都市おおぶ」みんなの健康づくり推進プランについて

事務局： プランの進捗と今年度の取組実績について【資料1】説明

委員： グラフの左側が自殺者数で、グラフの右側の自損行為件数は自殺未遂ということか。

事務局： 既遂未遂を問わず自損行為での搬送数について消防署からデータを貰っている。ただ、消防署でも出動する場合としない場合があり、自殺統計と救急統計どちらかだけでは十分に状況を把握できないため、毎回2つのグラフを提示している。

委員： 知多保健所管内では、自殺未遂の方に対して積極的にいろんな取組を実施しており、全国と比較して自殺未遂で自殺に繋がらなかったケースがかなり多い。この地域の特色だと感じる。

委員： 昨年度の自損行為件数が多かった原因として、自損行為を繰り返される方がいらっしまったと記憶しているが、今年度件数が減ったのは、そういった方に市の

何らかの取組が効いたということか。

事務局： 市で把握をしている、昨年度未遂を繰り返していた方については、知多保健所も含め、ケースとして扱っていただき、少し落ちついている。昨年度ほどではないが今年も繰り返される方はいるので、そういった方に対する適切な支援については引き続き検討していく必要があると考えている。

委員： 保健所や各市町村の自殺担当、警察、消防署で、対象の方の連絡先を共有しており、相談受付体制を組んでいる。また、保健所が市町村から自殺未遂の方の情報をいただき、保健師がその方を訪問して、調子はどうですかと相談に乗るようなことも行っている。そのような取組も影響し、自損行為減少につながったのかなと感じる。

(2) 健康都市施策の実施状況について

・乳幼児食物アレルギースクリーニング事業について

事務局： 乳幼児食物アレルギースクリーニング事業について【資料2-1】 説明

委員： この事業は、受診者にも非常に好評で、順調に進んでいると聞いている。地域のクリニックにも受診先の医療機関ということで協力いただいております。来年度、目に見える成果が出てくることを期待しているところである。当センターの立場としては、アレルギー科の臨床研究課題と位置づけて、センター内の研究予算で医師を派遣しているが、センター独自の研究課題ということでは、長期の継続が難しくなってくると思われる。恐らくこの形で来年、再来年は実施することになると思うが、将来的には、大府市の事業に対して当センターが医師を派遣して協力するという関係にしたいと考えている。

・子どもの近視予防プロジェクトについて

事務局： 子どもの近視予防プロジェクトについて【資料2-2】 説明

委員： とても重要でユニークな、意味のある取組だと感じた。今回プリテスト的に100名ほどに実施したということで、「心がけよう」「意識してみよう」という取組は、介入のデザインとしては弱いと感じた。効果としては期待できるものなのか。

事務局： 事後アンケートの中で、「近視予防のために何が必要か、保護者が理解できた」「近視予防のために何が必要か、子どもが理解出来た」「生活習慣を変えよう」と取り組んでみた」「近視を予防するための生活習慣が定着した」など、リテラシーの向上から行動変容まで幅広く質問した。今回の取組支援を通して、少なくとも気を付けなければいけないことが何かは理解いただけた。一方で、3か条のうち「1日2時間外に出る」、「20～30分に1回は目を休める」は、達成のハードルが高い親子も多かった。暫定の集計でおおよそ7割の方が、近視を予防するための生活習慣が定着したと回答しており、「プロジェクトに参加してよかった」「これからも目を大切にしたい」という回答は100%だった。

今回は、最新のデータに基づき、近視予防のために何をすべきかを親子で楽しく理解するということから事業を展開していったが、今後は、自然と目に優しい暮らしができる環境整備等も含めて検討していきたい。

委員： 今日の前半の話にもあったように、かなりハードなアウトカムに設定されているので、中間アウトカムの設定も含め、検討するとよいのではないかと感じた。

林委員： 1年生を対象とした来年度の取組について、学校公開日などの公開授業のときに目についての授業を設けたり、学校保健委員会等を利用したりするなど、保護者を巻き込んだほうが効果的だと感じる。保護者へのアプローチとして、チラシ以外にも何か手があるといい。楽しみにしている。

事務局： できるだけ学校に負担のない形で始めていく。学校を含め関係者と相談をしながら充実させていきたい。

・健康経営の推進と健康プログラムの実施について

事務局： 健康経営の推進と健康プログラムの実施について【資料2-3】 説明

委員： (3)の管理栄養士による無料相談や、健康経営お助けホットラインにあるKURUTOおおぶの健康相談において、管理栄養士が無料で相談に乗ってくれるのは非常に良い取組だと感じている。何名ぐらい利用しているのか。

事務局： 現時点で具体的な件数は把握しておらず、スギ薬局から年度末に報告いただく予定。KURUTOおおぶでも月に数回あると聞いている。

委員： 医者に行くまでもない段階で、気軽に相談できるこのような取組は重要だと思う。

委員： 私が勤めている会社でも健康経営を推進しており、大府市の取組を活用している。弊社の取組では、例えば栄養に関して言うと、2～3月をベジアップ月間と称してベジチェックを実施している。目標を達成した者に対して賞品をつけたり、グループで計測をしてコミュニケーションを交えたりして、楽しんでもらいながら進めるのが大切だと認識している。

また、スポーツ推進委員としても、ニーズの掘り起こしに苦慮している。昨年度、ニュースポーツフェスタを実施したときは、コロナ禍でありながら参加者が多かったが、今年度はその半数だった。原因としては、案内や申込がWebに移行したことが考えられる。Webは自分から情報を取りに行かないといけない。以前は小学生にチラシを配っていたが、今年度は配らなかった。チラシの配布は、人出も費用もかかり、先生にとっての負担にもなるかとは思いますが、子どもたちとの関わりが強い先生から一言声をかけていただくと大変助かる。

スポーツに誘導するにあたり、全てに言えることは、顔を合わせて声かけし、少しでも心を動かすことが大事だということである。スポーツ推進委員会が開催しているイベント（ウォーキングやノルディックウォーク等）を、市内事業所にどんどん発信していただきたい。

・高血圧対策プロジェクトについて

事務局： 高血圧対策プロジェクトについて【資料2-4】 説明

(3) 地域包括ケアの推進について

事務局： 地域包括ケアの推進について【資料3】 説明

委員： 2で認知症に関する啓発事業の実施について報告いただいたが、1の(3)全世代型サロンの展開も認知症と関連が深く、「交流する」「人との接触を増やす」ということが、認知症またはその予防にとって重要である。認知症カフェについても、大府市は全国的に見て、かなり積極的に取り組んでおり、オンラインでも開催している。さらに、資料にはないが、認知症の相談窓口増やすということも重要で、大府市ではグループホームの職員が窓口になって、伴走型支援を開始する。また、人数は少ないが社会的な影響が大きい若年性認知症についても取組を始めている。大府市は非常に熱心に認知症対策に取り組んでいるので、引き続き連携して進めていただきたい。

(4) 新型コロナウイルス感染症対策について

事務局： 新型コロナウイルス感染症に関する本市の取組について【資料4-1】 説明
陽性者や濃厚接触者への支援について【資料4-2】 説明
連絡のつかない在宅療養者の確認について【資料4-3】 説明

委員： パルスオキシメーターの配送や薬の配送、買い物代行等、ご対応いただきお礼申し上げます。陽性となった方について、県には病院から送られてくる情報ぐらいしかなく、対象者の状況がわからない。保健所として実際に訪問確認するのが難しい部分もあったので、今回大府市に協力いただきとても助かった。今、感染者数は減っており、コロナ終息への期待を寄せている。5月には5類移行とのことだが、その後どうなるかは全く分からず、引き続き大府市ご協力いただくこともあるかもしれないので、その際はまたよろしくお願ひしたい。

(その他意見・質問等)

委員： 3ページ、運動が嫌いな中学生の割合が増えているが、子どもたちはなぜ運動が嫌いなのか調査したことはあるか。

事務局： 臆測の域を出ないが、長いコロナ禍で、ランニングや縄跳びのような比較的距離がとれる運動しかできなかったことが影響しているのではと推測している。今後コロナの状況が変わり、様々なスポーツを制限なく実施できるようになることを期待している。市としてもスポーツの楽しさ等について様々な形で啓発していきたい。

委員： 5ページの(2)節度ある飲酒で、健診に来ない人への啓発・指導が課題とあったが、今後取り組んでいく計画はあるのか。

事務局： 現状は課題認識の段階で、具体的な計画はない。健診で把握できれば指導できるが、そのようなリスクのある人たちに確実に健診に来ていただくための方策も含め、今後検討していきたい。

委員： 7ページのゲートキーパーの養成で、職員55名とあるが、大府市の職員数はどれぐらいか。

事務局： 消防職と保育職を含めれば700名程度。一般行政職だと300名程度。

職員55名というのは今年度の養成者数である。令和3年度から養成を開始し、まず職員から優先的に養成しているので、累計の数は市民より職員の方が多い。

職員のおよそ半数程度は養成研修受講済みとなっている。今後は消防職や保育職など、就業時間中に職場を離れて研修を受講するのが難しい職員について、受講方法の柔軟化等も含め対応していきたい。

会長： 予定の議題はすべて終了した。健康都市おおぶの実現に向け、熱意をもって取り組んでいることがよく分かり、非常に心強く感じた。コロナ前に戻ったもの、戻らなかったもの、様々なものがあった。委員から提示のあった問題点、課題等を、次年度の計画、プランの実行に向けて、反映させてほしい。

3 その他

(委員からの連絡なし)

事務局： 来年度の会議開催は、第1回が令和5年6月28日(水)、第2回が令和6年2月21日(水)、場所は今回同様、全員協議会室を予定している。開催日が近くなったら、改めてご案内をさせていただく。

以上で、令和4年度第2回健康都市おおぶ推進会議を終了する。